

令和 6 年 6 月 16 日現在

機関番号：14201

研究種目：奨励研究

研究期間：2023～2023

課題番号：23H05070

研究課題名 郷土の言語文化の「保存・継承」を動機づける教材開発と実践 滋賀県域の方言を題材に

研究代表者

永田 郁子 (NAGATA, IKUKO)

滋賀大学・教育学部附属中学校・教諭

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 300,000円

研究成果の概要：多数の方言区分に分かれる滋賀県の豊かな方言について、その地理的・歴史的背景を含めた特色を紹介する中学校の国語科の教材を作成し、それを用いた授業実践をおこなった。教材の作成については、滋賀県高島市の方言調査のほか、研究代表者の勤務校ならびに滋賀県内の公立中学校での授業実践（ともに第1学年対象）、小学校教員へのヒアリングなどを実施し、小中学校の双方に活用できるものを目指した（教材は県内中学校に配布予定）。

また文献より評価語彙の滋賀県方言を集めた語彙集を作成し、滋賀県の方言の語感を活かしたキャッチコピーを用いた条例を啓発するリーフレットを作成するという授業実践（第3学年対象）を外部に公開をした。

研究成果の学術的意義や社会的意義

郷土の方言の「保存・継承」について学ぶことは、国語科においてESD（持続可能な開発のための教育）としての特色を強く打ち出せると考える。

中学校国語科において方言の指導は第1学年の「我が国の言語文化に関する事項」に位置づけられている。しかし、沖縄県教育委員会『しまくとぅば』を例とするような方言に特化した地域教材が滋賀県では作成されていなかった。人口減少が危惧される滋賀県北部では方言が危機的状況にあり、南部では他の都道府県からの人口流入が著しく「新方言」の問題が顕在化している。このような県内の状況をふまえ、小学校での活用をも念頭におき、系統的に学習することが可能な教材を作成した。

研究分野：教科教育学

キーワード：方言 ESD 地域教材

1. 研究の目的

研究対象とする滋賀県は、県北部では人口減少、県南部では人口流入と、方言に関する問題が顕在化している状況である。中央に日本最大の湖があり、周辺の著名な今昔の街道筋に沿って人々が交流し、長く都がおかれた京都に隣接しているという地理的・歴史的な背景等がある滋賀県は、4～5の方言区画にわかれており、他の都道府県に比して豊かであるといえる。

方言に関する指導は、第1学年の「我が国の言語文化に関する事項」に位置づけられている。しかし、沖縄県教育委員会『しまくとぅば』を一例とするような、方言学習に特化した地域教材が滋賀県では未だに作成されていない。生徒が方言・共通語それぞれの役割について、地域の実態に即して系統的に学習することができる教材の作成は喫緊の課題であるといえる。

ユネスコによると世界中の消滅危機言語は約2,500に上るとされ、方言の「保存・継承」について学ぶことは、国語科においてESDとしての特色を強く打ち出せる。

本研究は、国語科第1学年の目標「我が国の言語文化に親しんだり理解したりすることができるようにする。」を主眼に置いて、小学校段階でも一部活用可能な滋賀県の方言の教材開発およびそれを活用した実践例の提案を目指した。中学生に郷土の方言の特色や役割を理解させ、方言そのものの「保存・継承」に関心を深めさせ、「持続可能な社会の創り手」の育成を見すえることを念頭に、指導法を含めて評価することを目的とした。

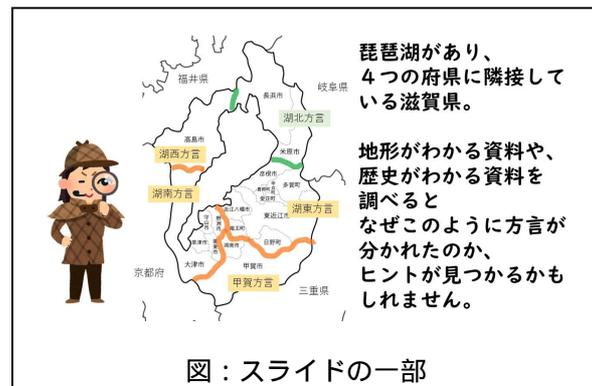
2. 研究成果

研究成果については、おおよそ2種類に分かれる。一つは、滋賀県の方言分布とその特異性について紹介するスライド教材を使った中学校第1学年を対象とした「方言と共通語」の実践であり、もう一つは滋賀県の方言語彙集を用いて方言の語感を活かした実用的文章を書くという第3学年を対象とした実践である。

(1) 第1学年「方言と共通語」

スライド教材の作成にあたっては、試作を用いた本校での実践を経て、学習指導要領（平成29年告示）の第1学年〔知識及び技能〕(3)ウ「共通語と方言の果たす役割について理解すること。」の指導を目的としながらも滋賀県の地理的・歴史的背景とともに方言区分に解説するものや、滋賀県高島市内の方言調査をもとに方言の「保存・継承」について問題提起するものなど合計5編のスライドを作成した。

この5編のスライドについては編集可能な状態で、県内の各中学校等に配布（令和6年6月下旬予定）。スライドの作成過程では、県内のある公立中学校にて協力を依頼し、国語科教員への内容についてのヒアリングおよび、当該校むけに編集したスライドによる第1学年対象の授業実施をおこなった。また、県内の小学校教員（高学年担当）にもヒアリングを実施し、小学校での方言と共通語の指導の活用にも広げられるよう改善した。5編のスライドの概要と活用事例については、令和6年8月実施の大津市初任者研修・教職2・3年次研修・臨時的任用教員研修における教科別研修会にて「滋賀県の方言教材の作成過程と活用事例について」として発表予定である。



(2) 第3年「方言の語感を生かした条例啓発リーフレット」

滋賀県の条例の内容を啓発するリーフレットのキャッチコピーに滋賀県の方言を使用するというものである。『滋賀県方言語彙・用例辞典』（増井金典編・サンライズ出版・2000年）から、キャッチコピーに使用できる語彙を抽出したリストを作成し、それを生徒が活用しながら、リーフレットを作成し、方言の語感を使用しながら、行動をよびかける際の言葉のはたらきに着目させることをねらいとした。

この実践については、令和5年度滋賀大学教育学部附属中学校校内研究会公開（令和5年11月27日実施）にて、『『対話型の学習』を通して言葉による見方・考え方に迫る『問い』の実践 ESDの視点を用いた国語科における『現代的な諸課題に関する』単元構成を目指して』と題して外部に公開し、実施後の協議会では、授業の展開や生徒成果物について、参観者からの指導や助言を得ることができた。

主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計0件

〔学会発表〕 計2件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 永田 郁子
2. 発表標題 「対話型の学習」を通して言葉による見方・考え方に迫る「問い」の実践 ESDの視点を用いた国語科における「現代的な諸課題に関する」単元構成を目指して
3. 学会等名 令和5年度滋賀大学教育学部附属中学校校内研究会公開
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 永田 郁子
2. 発表標題 (仮)滋賀県の方言教材の作成過程と活用事例について
3. 学会等名 令和6年度大津市初任者研修・教職2・3年次研修・臨時的任用教員研修における教科別研修会（予定）
4. 発表年 2024年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

研究組織（研究協力者）

氏名	ローマ字氏名
----	--------